

令和6年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名： 社会福祉課 シート No. : 32 作成日： 2025. 5/15

① 総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	Ⅱ 保健・医療・福祉の充実	事務事業の背景・目的	事務事業の目標
	施策の目標	3 誰もが生きがいを持てるまちづくりを進める	ノーマライゼーションや地域社会における共生の考え方は、少しずつ浸透していますが、偏見や差別という「心のバリアフリー」の問題は、引き続き大きな課題となっています。障がいのある人が地域社会で共生できる社会を実現するためには、全ての人が多様な障がいや、障がいのある人に対する理解を深めていく必要があります。また、障がいのある人に対する理解を促進するため、障がいのある人となない人との交流の機会を充実させる必要があります。	・障がい者が安心して暮らせる地域共生社会の実現に向け、障がい及び障がい者に対する正しい理解と配慮についての啓発を行います。 ・障がい者の社会参加や交流機会の拡大を推進します。
	施策	2 障がい者福祉		
	施策内容	共に生きる社会づくりの推進		
	その他、根拠法令及び分野別計画等	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律		
事務事業名		理解促進研修啓発事業等		

② アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

③ インプット（投入）

アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R 6 予算額	R 6 決算額
活動名・事業名 （対象年）	R 6 活動・事業内容	指標（単位）	R 6 目標値	R 7 目標値		
			R 6 実績値	R 8 目標値		
理解促進研修啓発事業 （R6・7・8）	チャレンジフェスにて右手のピアニストによるコンサートやゲートキーパー研修会、障がい者福祉ブースの設置により障がい者等への理解を促進する事業です。	参加者（人）	100	100	200 千円	200 千円
			50	100		
理解促進研修啓発事業 （R6・7・8）	透明ディスプレイを活用した啓発事業です。	対応者（人）	40	40		
			40	40		
理解促進研修啓発事業 （R6・7・8）	こまり感バッジの窓口設置・配布により困っている方への理解を促進する事業です。	配布数（個）	200	200		
			200	200		
理解促進研修啓発事業 （R6・7・8）	ヘルプマークの配布等により支援が必要な方への理解を促進する事業です。	配布数（個）	160	160		
			160	160		
障がい者自動車運転免許取得等助成事業 （R6・7・8）	障がい者自動車運転免許取得費や身体障がい者自動車改造費を助成する事業です。	申請者（人）	2	2	200 千円	200 千円
			1	2		
茨城県障害者スポーツ大会 （R6・7・8）	茨城県障害者スポーツ大会にバス等で参加者や応援者を引率して社会参加を促進する事業です。	参加者等（人）	13	15	26 千円	26 千円
			13	15		
					千円	千円
					千円	千円
					千円	千円

④ アウトカム（成果）

指標名	目標値	R 6 実績値
障がい福祉に関する理解度の向上	50%	41%
障がい者の社会参加の促進	60%	52. 7%

⑤ 点検・改善

業務の振り返り	改善の余地			
障がい者週間に合わせ、チャレンジドフェスというイベントを開催し、右手のピアニストによるコンサートや、ゲートキーパー養成研修会を実施し、障がい者等に関する地域住民の理解促進を図りました。 また、当該フェスでヘルプマークやこまり感バッジの配布、透明ディスプレイのスライドショーで障がい理解ための啓発活動を実施しました。 イベント開催にあたっては、SNS や広報誌に加えて電子連絡帳等を活用して周知方法を改善し、参加者を増やす工夫に取り組めます。 茨城県身体障害者スポーツ大会では参加者の多くがメダルを獲得し、応援者も含めて充実した日となりました。今後は、参加者等を増やすために、障害者施設等への声掛けに努めます。	☐ コスト	☒ 活動	☐ 成果	☐ その他
	今後の方向性			
	障がいのある人もない人も、ともに活動や交流が出来るような「地域共生社会」の実現を図るため、障がいのある人や障がい特性などを、市民の方が学ぶ機会の充実や、情報等の提供、及び交流の場を増やしていくことが必要です。 スポーツ大会をはじめとする障がい者との交流の場の参加者数は拡大を見込めます。各種広報媒体の活用や様々な行事・イベントを通して障がいに関する理解を啓発します。			